

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 4章14～21節>

①パウロは「私に倣う者になりなさい」と命じているが…。

今日の個所でパウロは、「愛する自分の子供として諭す」(14)、「父親が大勢いるわけではない」「私があなたがたをもうけた(生んだ：口語訳)(15)と語りかけています。それは、コリントの教会はこの手紙の約3年前にパウロが伝道してできた教会だからです。しかしそれだけでは、「私に倣う者になりなさい」(16)と言われて「はい」と答える理由にはなりません。パウロに倣って間違いない確たる信仰的理由があります。それは何でしょうか？

②「キリスト・イエスにおいて(むすばれた)」が大事！

パウロはここで、「福音を通し、キリスト・イエスにおいて(in)私^があなたがたをもうけたのです」(15)「キリスト・イエスに結ばれた(in)私の生き方を」と、同じ表現を繰り返して大事なことを強調しています。つまり、パウロはただ「自分に倣え」と言っているのではなく、「自分はイエス様に倣って生きている。だから、私に倣って生きよ。そうしたら、間違いなく、あなたがたもイエス様に倣って生きることになるから」、と言っているのです。イエス様によって罪赦され、生かされている恵みを知った人の助言なのです！

③それは「高ぶっている人たち」の反対の姿に倣うこと！

イエス様に倣う姿とはどんな姿でしょうか？ それはコリントの教会に分派争いを起こしている「高ぶっている人々」(18-19)とは反対の、福音の伝道のためにどんな人にも低く仕えることができたイエス様とパウロの姿です(9章19節以下)！

④パウロが問題にしている「力」とは何か？ 聖霊なる神の力！

パウロが言う、「言葉ではなく力を見せてもらおう。神の国は言葉ではなく力にあるのですから」(19-20)の「力」とは何でしょうか？ 「高ぶっている人々」が誇るのと同じ類いの力とは違います。ここでパウロが考えているのは聖霊の力、神様の力です(2章4,5節、ローマ14章17節)。パウロが、「(神様の)力は(あなたの)弱さの中で発揮されるのだ」(コリントⅡ 12:9)と悟った神様の力です。私たちも、この神の力によって生きる者となりましょう！